アコースティックバンド「テノヒラ」のボーカル　愛南町出身のkikuさんがつづるふるさとエッセイ

ーあいなん音故地新ー　学校という小さな社会 -前編-

出会いと別れが交差する季節がまたやってきた。特に子どもたちは学校が変わったり、クラスが変わったり、先生が変わったり。新しい環境にワクワクしとる子もおれば、不安を抱いとる子もおるやろう。コロナで小中学生の不登校も増えとるようで、学校で経験すべきことを経験できんまま大人になってしまうことを、余計なお世話と分かりながらも心配してしまう。なぜなら、学校は"小さい社会"やから。

伝説のロックバンド・THE BLUE HEARTSの甲本ヒロトはこう言うとる。「(学校の中で)友達なんていなくて当たり前。クラスメイトなんて友達じゃない。たまたま同じ年に生まれた近所の子が同じ部屋に集められただけ」続けて、偶然電車に乗って、はい、みんな仲良くね、と言われてるのと同じ、だと。そして、最後に「ただ、友達じゃないけど、けんかせず自分が降りる駅まで平和に乗ってられなきゃダメでしょう？学校はその訓練をするところ。友達でもない仲良しでもない好きでもない子たちとけんかしないで平穏に暮らす練習をするのが学校だ」と。。。(次号につづく)

（テノヒラkiku）

本日！海日和!! vol.136
「サンゴの天敵は…」

3月5日は語呂合わせでサンゴの日だ。特別な行事は行われないが、サンゴを売りにしている愛南町にとっては、記念すべき日かもしれない。

サンゴの天敵としてオニヒトデが知られている。ご存知の方も多いだろう。横島でオニヒトデの駆除をしているとき、仲間の一人が呼びに来た。と言っても水中なので手招きで付いて来いと言う。後を追って、指さす方を見ると、先日駆除したオニヒトデに何かが覆いかぶさっている。

何だろうとよく見ると、ホラガイの仲間であるボウシュウボラだ。酢酸を打たれて溶けかかっているオニヒトデを一心不乱に食べている。ホラガイとよく似ているので、同じ貝として流通していることも多い。

【オニヒトデを食べるボウシュウボラ】

オニヒトデは海のギャングなどと呼ばれることもあるが、彼らも生きるためにサンゴを食べている。ボウシュウボラも生きるためにオニヒトデを食べる。本当のギャングは、海の環境を省みない人間かもしれない。

（撮影地：横島）

愛南サンゴを守る会　西尾知照（ともてる）